



hida

広報

ひだ

町木



第30号
肥田町
郷づくり委員会
H15.7.1発行

一面 もっと知ろう地元の大学「聖泉大学」
〈緑風〉 郷里と俳句
二面 「わたしのふるさと」特集

もっと知ろう地元の大学「聖泉大学」

地域に根ざし、地域に貢献できる人材育成を目指す

昭和60年の春、地元の方々の協力によってこの肥田町に開学した本学は、18年の歳月を経て、本年4月からいよいよ聖泉大学として第一歩を踏み出すことができました。

てまいりました。このたび、これまで築いてきた教育を基に4年制課程「人間学部」のなかに県内の大学としては初めて「人間心理学」というユニークな学科を開設いたしました。

同時に従来の聖泉短期大学の名称を聖泉大学短期大学部と改め、現在は介護福祉学科と企業マネジメント学科の学生達を迎え、学内は活気に溢れているところです。

今の日本は、生活そのものが豊かになった反面で、感謝する心、人を敬う心が薄れ、精神的充足感が得られない人や人間関係に心を痛める人が増えています。長引く不況もこの傾向に拍車をかけていますが、このような現代社会において、より良い人間関係を形成し、心を癒す専門家を育てる心理学に、高い関心が

本学は、キリスト教の教えを建学の精神として、地域に根ざした学園として4,000名を越える卒業生を社会に送りだ

寄せられるようになり、本学はそうした期待に沿いたいと考えました。この学科では「人の心を支えることのできる人材」の育成を教育目標としています。学生が将来、地域社会や企業の中においても、周りの人のよき理解者として活躍できるように



さて地域と大学はひとつのパートナーです。本学は聖泉大学開学を機に、地域の方々への公開講座に一層の力を注いでおります。昨年度はパソコンなどの情報基礎教育や簿記会計の講座、ジャーナリズムの世界など多種多様な講座を無料で開講してまいりました。本年度も更に多くの講座を実施してまいりますので、ぜひご参加下さい。

ところで近々本学は正門前の約2万㎡の土地を運動場として造成する予定です。これにつきましては地元地権者の方々の暖かいご協力が得られ、心から感謝しております。運動場が完成すれば、グラウンドゴルフ、フットサル、陸上競技など幅広い屋外スポーツが可能となります。聖泉大学は、地域に開かれた大学として、今後とも保有する施設や知的資産を地域の人々が積極的に活用されるよう協力したいと考えております。新しくスタートいたしました聖泉大学に、今後とも皆様方のご支援ご指導をよろしくお願いいたします。



聖泉大学学長 渡邊正元



(1936年生 松戸市在住)

〈緑風〉
郷里と俳句
加藤貞一

運びなど手伝ったのを懐かしく思い出しました。

*「繕いは 紙のさくらや」
古障子

実家の障子に桜型の切り紙の補修があります。マンションには障子がなく、庭先で障子を洗う光景も見かけなくなりました。

*「つばくろの 通り口ある」
農の軒

農家としましたが肥田のうどん屋さんです。内には菓もありました。懐かしい風情でした。

*「冬ざれや 素足の白き」
修行僧

昨年未永源寺に詣でました。寒い風の吹く中若い修行僧達が素足で回廊を行く姿に心打たれました。

*「庖丁に たじろぎ砂吐く」
蛭かな

平和堂でパックの蛭を買いました。昔は大量に買い桶に入れた鉄庖丁を刺して砂を吐かせたのを思い出しました。

*「坪庭に 披露目の舞や」
初ちようちよ

三月末帰省時に、まだ舞い方のごこない蝶々が来てくれました。私には初蝶でした。

*「黄昏れる 淡海の空を」
雁渡る

昨秋大津で雁が竿になって西に飛んで行く光景を目にしました。琵琶湖は俳句の題材の宝庫です。

(敢えて 口語で分かち書きにしました)



緑かな
農業もすっかり変わりました。子供の頃農繁休暇があり苗

ばと思います。

*「関が原 三寒四温」
せめぎ合う

帰省の新幹線、大垣を過ぎて暫くは春の陽射しなのに関が原から雪が残っていました。天

*「田植え機の 描く五條の」
緑かな

「わたしたちのふるさと」特集

彦根市教育委員会では、今日、完全学校週休5日制も生まれ、子供たちがゆとりある生活の中で、日常にさまざまな体験を通して自ら学び、考える力や豊かな人間性を育み、健やかな成長を促していきたい、そのためにも学校と家庭そして町も夫々その役割と責任を自覚して子供たちに積極的にかかわってほしいとの願いがあります。その様な願いの中で企画されたのが小学生対象では、「わたしのふるさと」の作文の募集でした。既に今日までに17回の回を重ねて努められています。

私たちの肥田町からも毎年入選された作品が近江同盟新聞にも掲載されていますが、ここで特集しました。成長期の子供たちへの皆様のご理解を深めていただくとともに、その郷土への誇りと愛着の芽生えを大切に育み、文化の伝承の力強い担い手とし皆さんのご支援を御願います。尚ここに紹介しました二人は現在は中学生に成長されています。ともに小学校6年生の時の入選作品です。



「ぼくのふるさと」

薩摩 祐大

ぼくの住んでいる肥田町は、とても歴史の古い町です。三年生の時に、ぼくの家付近に肥田城があったことを両親に教えてもらいました。四年生になって、肥田町で土器が発見されたことを知りました。そして昨年、総合の勉強で水争いがあったことを知りました。ぼくは、もっともふるさとである肥田町のことを知りたくて、自分の足で、目で確かめにいきました。

まず一番目に行ったのが、町内にある崇徳寺です。ここには、土器や昔の資料がたくさんおいてあります。昔、たか橋の下の宇曾川が洪水となり水があふれるので、宇曾川を大きくするために掘っていたらその土器が見つかったそうです。歴史で勉強した縄文式土器のようでした。しっかりとした形で残っているので、びっくりしました。次にこのお寺の方に話を聞いていると、今の神社の近くに肥田城があったそうです。それでぼくは、自分で確かめに行きました。そうすると、本当に神社の近くに小さな小屋みたいな石の塔が立っていました。

今から五、六百年前に、ここに城があったのかと思うとなんだかドキドキしてきます。この城を水びたしにして攻めようとしたらしいのですが、幸運にも雨が降り水が流れ出し、何とか城を守ることができたそうです。また、近くに流れる宇曾川は、大雨が降るとすぐに水があふれ、肥田町や近くの町は水びたしになり、お米がとれない年もよくあったそうです。また、近年までは、稲作に必要な水をひくのに、水争いもあり、一晩中、川の水守りもしていたそうですが、今は逆水になり、安心して稲作づくりができるようになりました。また、崇徳寺の庭には石碑が建てられ、「戦争中ここに防空壕があった。B29の爆音をこの中で何度も聞いた。みにくい過ちをくりかえさないため、この碑をたてる。」と書いてありました。お寺の方は、ここで何度かB29の爆音を聞いたそうです。戦争というと、ぼくとはずいぶん分けてはなれた昔のことと感じていたけれど、自分のすぐ近くにこんなところがあったなんて想像もできませんでした。

ぼくは、学校の勉強でふる里肥田町のことを調べていく中で、この肥田町はとても歴史の深い町なんだなあと思いました。そしてぼくたちの先祖が、この町を守るためにいろいろな努力をし、今日ここまできずきあげてくださったのだなあと感じの気持ちでいっぱいになります。普段、何気なく見ていた田んぼや宇曾川、何気なく遊んだ神社や寺、ここは僕たちのふる里、肥田町の宝物だと思います。そしてこれからはぼくたちがその宝を守っていききたいと思いました。

歴史の古い肥田町「わたしのふるさと」

成宮 衣代

私が住んでいる彦根市肥田町はとても歴史が古い町です。肥田町は、近くに宇曾川という川があって、たくさんの田んぼにかこまれている町です。人口は、約400人で、寺が四つ、お宮さんが二つです。春、さくら公園にさくらがきれいに咲きます。登町、西町、東町にわかれていて、縦に長い町です。

肥田町には昔、肥田城というお城がありました。お城は今はいくけれど、肥田城址が肥田町公民館の花壇の所にあります。前は違うところにありました。2000年前、ヒダの地には人が住んでいたらしいです。それがわかるのは、「肥田西遺跡」と呼ばれているところから、弥生時代中期ごろのものとされた、食物を貯蔵するためのつば、にたき用のかめなどが出土していたらしいからです。私達は最近、社会で大昔のくらしを勉強していました。この肥田の地に、2000年も昔の人が住んでいたのは、すごいなと思いました。

肥田にある四つの寺は、崇徳寺、興輪寺、長樂寺、法光寺で、二つの宮さんは、金刀比羅神社と住吉神社です。

明治22年に、町村制が施行されて、三津、海瀬、金沢、野良田、稲部、稲里、金田、肥田、彦富のあざで稲枝村が出来、肥田小学校、稲里小学校、金沢小学校、彦富小学校の四小学校が出来ました。私の家の近いところに、ありました。

夏休みに、ラジオ体操が終わった後、町まちづくり委員会の方が、「あいさつシール」をくれます。「あいさつシール」は、肥田町の方が、たくさんあいさつを交わすようにと、作ってくださった物です。私はあいさつを出来るだけしようと努力しています。いつか、肥田町の人だけでなく、他の町の人とも、必ずあいさつが出来たらいいなと思います。

この肥田町は、歴史が古くだけでなく、これからのいい肥田町にするにもがんばっておられます。私達は、これからもいい肥田町にするために、いろいろがんばりたいです。また今ある寺や、お宮さんを大切に、新しい公民館も大切にしたいです。

